

# 日本国内に映画フィルムは何本所蔵されているのか

～平成26・27・28年度文化庁文化芸術振興費補助事業「記録映画のデジタル保存・活用調査研究」～

 一般社団法人記録映画保存センター

記録映画保存センターでは、平成26・27年度に続き28年度も日本国内の映画フィルム所蔵調査を行いました。美術館・博物館・公文書館・視聴覚ライブラリー等の文化施設の他、放送局や一般企業にも範囲を広げ調査しました。その結果、3年度分を合わせ、773カ所に49万本を超えるフィルムが所蔵されていることが明らかになりました。この調査結果を踏まえ、今後もフィルムの保存と活用の推進に努めてまいります。尚、平成29年度も引き続き調査を実施しています。

## 〈平成26・27・28年度合計 調査項目から抜粋〉

### 調査対象とフィルム所有本数

(フィルム所有本数は概算です)

 放送局にはフィルム撮影時代の番組やニュース素材が多く残されています。

調査票送付先	発送数	回答数	フィルム所有施設数	フィルム所蔵総本数
博物館	2,550	1,333	303	39,285
美術館	560	301	42	1,305
視聴覚ライブラリー	494	226	202	147,754
公文書館他	97	63	27	6,246
図書館	1,206	641	96	16,574
公民館	594	186	13	567
一般企業	712	65	18	4,293
各種法人	97	24	9	642
自治体	49	30	15	5,747
NHK (地方局含む)	54	11	1	110,000
民間放送局	138	70	30	138,819
記録映画制作会社	35	10	10	18,056
その他	8	8	7	5,613
合計	6,594	2,968	773	494,901

内題名判明 106,344本

### いつ頃のフィルムか?

(施設数)

 戦前のフィルムを所有する施設も多いようです。

所蔵フィルムの年代	全施設合計	美術館	博物館	公文書館他	視聴覚ライブラリー	図書館	公民館	一般企業	各種法人	地方自治体	記録映画制作会社	その他の施設
1945年以前(戦前)	113	6	74	9	9	11	0	2	0	0	1	1
1946～1955年	115	4	55	12	23	9	0	3	0	2	4	3
1956～1970年	301	17	122	20	80	25	3	10	3	7	10	4
1971～1980年	358	17	124	9	131	41	6	10	3	6	9	2
1981～1999年	364	15	102	11	146	50	8	9	5	7	9	2
2000年以降	126	3	15	3	76	14	1	2	2	3	5	2
未確認	143	4	38	3	56	28	3	3	2	5	0	1

### 放送局が所蔵しているフィルムの撮影(制作)年代(31局中)

1945年以前(戦前)	1946年以降	1956年以降	1971年以降	未確認・無回答
8局	4局	15局	1局	3局

回答をしやすいよう、放送局等は一部質問形式を変えているため集計表が分かれています。

### どんなジャンルのフィルムをどのくらいの数保存しているか?

 記録映画を所有する施設が多いようです。

	本数	施設数	本数	施設数	本数	施設数	本数	施設数	本数	施設数
劇映画(邦画)	1～100本	122	101～200本	11	201～500本	2	500本以上	4	未確認	40
劇映画(洋画)	1～100本	34	101～200本	2	201～500本	2	500本以上	2	未確認	33
アニメ	1～100本	125	101～200本	45	201～500本	33	500本以上	1	未確認	43
記録映画	1～100本	288	101～200本	15	201～500本	11	500本以上	4	未確認	64
教育教材(学校・家庭・社会)	1～100本	171	101～200本	35	201～500本	67	500本以上	47	未確認	65
ニュース映画	1～100本	56	101～200本	2	201～500本	8	500本以上	4	未確認	32
美術作品(実験映画など)	1～100本	26	101～200本	3	201～500本	1	500本以上	0	未確認	23
民俗・無形民俗文化財の記録	1～100本	127	101～200本	3	201～500本	3	500本以上	2	未確認	39
アマチュア・市民の作品	1～100本	64	101～200本	4	201～500本	3	500本以上	1	未確認	26
その他 コレクション等	1～100本	41	101～200本	2	201～500本	5	500本以上	2	未確認	22

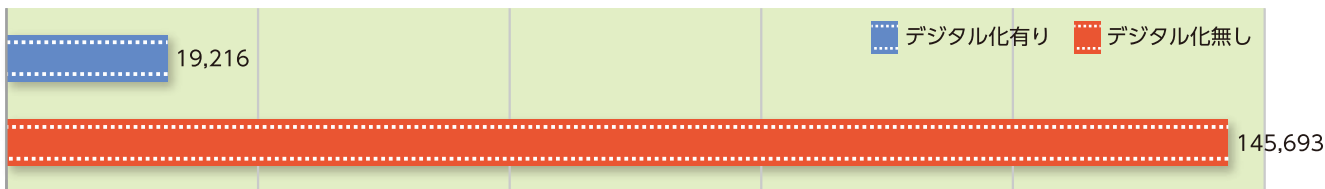
博物館・美術館・視聴覚ライブラリー・公文書館・図書館・公民館のみで集計

## デジタル化はどのくらいできているか？ (作品タイトル数)

放送局以外

🎯 デジタル化の割合が高いのは公文書館他のみです。

	合計	企業、法人、自治体	記録映画制作会社	その他	美術館	博物館	ライブラリー	公文書館他	公民館	図書館
デジタル化有り	19,216	4,345	3,319	208	128	5,520	3,263	1,914	1	518
デジタル化無し	145,693	5,833	13,987	4,996	1,012	11,986	91,196	387	540	15,756



放送局

🎯 多くの放送局で、フィルムのデジタル化を行っています。

デジタル化の割合	すべて完了	9割	8割	7割	5割	4割	2割	未着手	無回答
放送局31局中	42.0%	16.0%	6.5%	6.5%	6.5%	6.5%	3.0%	10.0%	3.0%

## フィルムの実情について

アンケート調査の他、28年度までに65ヵ所の現地調査を行い、直接お話を伺いました。

### ■美術館・博物館・公文書館

寄贈や移管を受けたフィルムを常温の保管庫で管理している施設が多く見受けられました。フィルムに詳しい担当者は少なく、映像内容を確認できないフィルムに高額なデジタル化費用を投じることは困難であるという意見が多く聞かれました。フィルムの劣化は進んでいるものの、やむを得ず現状のまま保存という施設が大半でした。このままフィルムが見られなくなってしまう前に対策を講じる必要があります。

### ■図書館・視聴覚ライブラリー

全国には、昭和30～50年代を中心に販売された16mmの教材プリントを数千本という単位で保存している視聴覚ライブラリーが複数あります。ほとんどのフィルムが現在活用されておらず、廃棄となるケースも年々増え続けています。DVDに複製するにも著作権の問題があり、制作会社が現存していなければ、許諾を得ることも困難です。しかしこれらの市販フィルムの中にも、すでにその元となるネガ原版が消滅している貴重な作品が含まれていることもあります。

### ■企業・団体・自治体等

過去に委託制作したPR映画、ニュース映画等の映写用プリントを保管している、という企業や自治体は複数ありました。しかしその作品の元となるネガ原版については、通常制作会社が管理しているため、今現在どうなっているかの把握をできているところは少ないようです。制作会社が消滅している場合、ネガ原版は返却先のないオーファン(孤児)フィルムとなり、現像所の倉庫に置かれたままになっている可能性もあります。

### ■放送局

放送局の多くは現在、番組やニュース素材のテープ類をデータファイルに変換する作業を進めています。フィルム撮影されていた時代の映像はすでにビデオ化され、その時点でフィルムを廃棄したという放送局も多くなりました。フィルムの情報量はビデオテープより多いといわれていますが、フィルムを残している場合でも、手間やコストの問題からデータファイル化は過去に複製したビデオテープから行っている場合が多いようです。また、現在フィルムを扱える人がほとんど残っておらず、OBの方がフィルム整理を行っているという放送局も複数見受けられました。その他、放送局には、外部から入手した古い時代のフィルムが残されていることもあり、それらは資料映像として活用されています。

### ■記録映画制作会社

記録映画を制作してきたプロダクションの多くは、長年の商慣習で現像所にネガ原版を預けたままにしています。近年、現像所がそれらのフィルムの返却を進めていることから、引き取ったフィルムを有料の倉庫へ預ける、もしくはフィルムセンターへ寄贈する、などの対応をとっている会社が多くみられます。デジタル化ができていないフィルム作品は、視聴するにも費用がかかり、なかなか活用に結びつけることができない状況となっています。